

ひめゆり学徒隊から知る

古堅中学校 二年三組 宮里 真央

二〇二二年六月二十三日。沖縄戦が終結してから七十七年が経ちました。その日は、テレビで沖縄戦に関する特集が放送されています。その特集でひめゆり学徒隊のことを知りました。その特集でひめゆり学徒隊のことが知りました。これほど、衝撃を受け、胸が締め付けられたのは、初めてでした。

ひめゆり学徒隊とは、女性のみで構成された、主に負傷兵の治療や遺体埋葬などを行っ

ていた女子学徒隊の一つでした。彼女らは十三歳から十九歳と、まだ学ぶ機会がたくさんある学生です。戦争さえなければ、現代の私たちとなにも変わらない女学生たちが、毎日死ぬかもしれないという思いを必死に抱え込みながら、人々を助けていたなんて、信じられません。

ですが、ひめゆり学徒隊の人たちは、自分の命を国家のためにささげる覚悟をしていたそうです。学徒隊に入っただけで、死

を覚悟をしていたのです。

いったい、私と同じくらいの歳の子たちは
どんな気持ちで戦争と向き合っていたのでし
ょうか。

私は、その気持ちを少しでも知るために、
ひめゆり学徒隊についてたくさん調べました。
そして、その中で一つの記事を見つけました。
それは、元ひめゆり学徒隊員である人の証言
を記したものでした。私は、その記事のひ
めゆり学徒隊の人たちは、戦争に勝っている

と嘘の情報を伝えられていたという文章を
読んで、腹が立ちました。ですが、それと同
時に、ひめゆり学徒隊の人たちに対しての考
えが大きく変わりました。

強い意志をもつて多くの人を助け、つらく、
苦しい状況を耐え抜こうとする彼女たちの勇
ましい行動は、傷ついた人々の心の支えにも
つながっていたのだと思いました。そして、
彼女たちの行動の裏には、大人たちの言葉を
信じる純粹な心が隠れていたのではないかと

思いました。「捕虜になることは恥」という
教えを忠実に守り、彼女らが集団自決したこ
とも、学校や大人たちが言うことを純粋に信
じて、日本は勝つと信じ続けて一日一日を耐
えていたのではないかと思いました。その事
に気づいた時、彼女らは、たくさんの人を救
った勇敢な女性、ではなく、私と同じ無力で
何の罪もない、まだ幼い女性だったのだと思
いました。そして、そんな彼女たちの未来あ
る人生をうばった戦争が許せませんでした。

私たちが平和の大切さを忘れてしまえば、
遠くない未来に大きな戦争をしてしまうかも
しれない……。私たちは、二度と戦争で彼女ら
のようになつらい思いをする人が出てこないよ
うに、平和の大切さを知らなければなりません。
ん。そのために、一人ひとりが平和になが
る小さな行動を積み重ねていき、平和の輪を
広げていくことが大切だと思います。争いの
無意味さを知っているはずなのに世界では、
今もなお、戦争をし、貧困や差別などで命を

1
落としていいる人がいます。私は、そんな人たちが増えないように募金活動に協力をし、支援していきたいと思います。

良い環境を築いていかなければ、人を思いやる心は育ちません。争いや戦争は減らしていく努力が必要だと思います。多くの人が協力し合い、平和を未来へつなげていく事が私達の務めではないでしょうか。

戦争とは何か、平和とは何か正しく理解する必要があると思います。戦争や貧困、差別で亡くなられた、たくさん尊ぶべき命があったからこそ、私達は今、日本で平和にくらせている事を、今一度、考えなおし、なおかつ政治や世界情勢に関心を持って学び続けたいと強く思いました。